

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	もりおか雪あかり開催事業			事業コード	1567
所属コード	132000	課等名	商工観光部観光課	係名	
課長名	小笠原 千春	担当者名	笹森 真人	内線番号	3726
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光交流の推進	コード	2
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 まつり・イベント振興事業 (004-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 14 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡城跡公園及び盛岡歴史文化館をメイン会場にもりおか雪あかりを開催し、盛岡への入込数が落ち込む冬季の観光客誘致と観光交流人口の拡大を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

東北新幹線の八戸延伸と「壬生義士伝」の映像化を契機として、平成 14 年度に盛岡観光推進委員会を立ち上げ観光客誘致事業を開始し、市民からの「盛岡に冬のイベントを」との声を受け、市民参加の「もりおか雪あかり」を平成 16 年度から実施している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

ボランティアなどのイベント参加者が微増傾向にあり、イベント規模が拡大するとともに、市民からの認知も高まっている。一方で、雪不足など天候に左右されることも多く、内容の再検討が必要となっている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

盛岡市民, 観光客

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 観光客入込数	万人	466	471	480	472	490
B 来場者数	千人	79	84	80	50	80
C 参加団体数	団体	50	50	50	50	50

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

負担金の支出
 実行委員会への参加
 ポスター・チラシ作成
 ボランティア募集
 資材借上げ, 購入等
 雪像製作, 雪あかり製作・設置
 会場製作, 運営, 撤収

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 雪あかり製作数	個	39,428	37,627	40,000	8,000	50,000
B 参加ボランティア数	人	850	550	600	474	900
C 会場数	箇所	11	11	11	11	11

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

県内外からの観光客入込客の増, 交流人口の増

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績	26年度目標値
A 観光客入込数	■上げる □下げる □維持	万人	466	471	480	472	490
B 来場者数	■上げる □下げる □維持	千人	79	84	80	50	80
C 参加ボランティア数	■上げる □下げる □維持	人	850	550	600	474	900

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	1,000	4,000	500	500
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	1,000	4,000	500	500
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	150	150	150	150
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	600	600	600	600
計	トータルコスト A+B	千円	1,600	4,600	1100	1100
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

観光客誘致により、観光関連産業の振興及び雇用の創出に結びついている。

② 市の関与の妥当性

市のイメージアップ及び観光客誘致促進を図るため、関与は妥当と考える。

③ 対象の妥当性

市民と協働して冬季の観光客誘致を図る事業であるため、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

盛岡の冬季を代表するイベントとして観光客誘致に貢献している事業であり、観光客入込数が減少する。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

冬季の盛岡を代表するイベントとしてより魅力のあるものとするために、他のイベントとの連携や市民が参加しやすい新企画など内容等の見直しを図る余地がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市民・観光客の豊かな生活に寄与するものとしての受益機会は、公平・公正であり適正である。

(4) 効率性評価

人員面については、現状必要最小限で事業を実施している。事業費については、企業協賛金の増加を図ることにより削減の可能性はあるが、当面は現状維持とならざるを得ない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

新たな企画による魅力度の向上と他イベントと連携した規模の拡大。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

企業協賛金の確保

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民ボランティアによる雪あかりの制作など市民参加のイベントとして実施されており，盛岡の冬の風物詩として定着しつつあるが，参加規模の一層の拡大を図る必要がある。

また，冬季の観光振興を目的に開始されたイベントであり，夜型観光イベントとして宿泊や飲食に結びつくような仕組みの構築とともに，冬の観光メニューと組み合わせたPR活動や情報発信により，イベントの一層の魅力向上を図る必要がある。